

# にゃんよとまちづくり

愛媛県 経済労働部 観光国際局 観光物産課 観光まちづくり係 武田 康



えひめ南予観光PRキャラクター「にゃんよ」



にゃんよ誕生

松山自動車道松山―西予宇和間の高速道路無料化社会実験を契機として、「ええとこなんよ！愛媛の南予」をキャッチフレーズ

に、愛媛県南予地域の観光情報を広く発信するため、「えひめ南予観光PRキャラクターバン隊」とともに、えひめ南予観光PRキャラクターとして誕生した「にゃんよ」。

この「にゃんよ」は、キャラバン隊事業の受託事業者である地元広告代理店から「南予（なんよ）」と「猫、猫の子」に「んよ」を掛けた「にゃんよ」という非常にわかりやすく親しみやすいネーミングで提案された。

デザインは、愛媛県の代名詞であり、特に八幡浜市、伊方町をはじめとした南予地域の沿岸部で収穫される「みかん」を全体のイメージとし、帽子には宇和島市特産の「宇和島真珠」を、首飾りには南予地域で養殖

が盛んな「愛鯛」と愛南町が日本一の水揚げを誇る「緋扇貝」を、服には内子町、大洲市、西予市に色濃く残る風情ある町並みを子ども用の着物にそれぞれイメージし、南予地域全体を連想させるものに仕上げた。

当初のデザインは、顔は今と変わらないものであったが、Tシャツ一枚しか着ておらず、コンセプトとネーミングについては非常にわかりやすいものの、メッセージ性と可愛らしさに欠けていたため、当時の観光物産課のメンバーで、着物や首飾りのデザイン、また一つひとつの色彩に至るまで、議論を重ねた結果、今の「にゃんよ」が誕生したものである。

ゆるきゃらを「どう使う?」

昨今、滋賀県彦根市のキャラクター「ひこにゃん」を皮切りとして、全国の多くの自治体が次々とゆるきゃらを制作しており、





やや過熱しすぎともいえる状況の中、今も多くのゆるきやら達が様々なイベントで活躍をしている。

ただ、このゆるきやらブームもピークは過ぎつつあり、現在はゆるきよらの存続自体に明暗が別れる時期に差しかかっているように思われる。安易にゆるきよら人気に便乗した、デザイン性やストーリー性の弱いものや、単にキャラクター自体の人気を上げようとするだけのものについては、徐々に姿を消しつつある。

ゆるきよらを展開している全国の自治体や団体においても、こういった状況を乗り越えるべく、ゆるきよら存続のために試行錯誤を繰り返し、様々な手法を駆使して活動を続けていることであろう。

### にゃんよを活用した 情報発信や まちづくりの取り組み

大事なものは、ゆるきよらそれ自体を売り込み、存続させることを目的とするのではなく、あくまでもその地域を売り込むツールとして捉え、これまでは知ってもらうことが難しかった地域や、近くにありながら興



キャラバン風景

### ★キャラバン隊の活動

味を持ってもらえなかった県内の人達に、南予の魅力やまちづくりの取り組みを今以上に知ってもらいたいという思いで活動していくことが、地元をはじめ多くの人に永く愛され続ける条件ではないかと考えている。

そういった考えのもと行っている、「にゃんよ」を活用した取り組みについて幾つかご紹介させていただきたい。

「にゃんよ」を中心に、昨年7月から県内を初め、四国、中国、近畿地方において、一般の方に南予地域の観光PRを行う街頭キャンペーンや、南予地域の旅行商品造成や送客をお願いする旅行会社を訪問してのPR活動を戦略的に展開している。

キャラバンの中で、「にゃんよ」を知って、もっと南予のことを知って



TV番組口ケ風景

### ★マスメディアやインターネットを活用した地域の情報発信

みたくなりました」「にゃんよを通じて、真珠などの南予の特産物を知りました」等の言葉もいただいております、キャラバンの活動に一定の手応えを感じている。

県内の放送局に依頼し、「にゃんよ」を活用した南予紹介番組の制作を進めている。

県内では7月20日(水)と9月21日(水)の19時〜20時のゴールデンタイムでの放送

を予定しており、「にゃんよ」が、芸人や女性レポーターとともに、元気に南予地域を旅し、グルメや観光体験等、南予の魅力を残すことなく紹介する内容となっている。

TV番組の制作は、情報発信はもとより、TVの取材を受けることで地元観光関係者のモチベーションの向上を図ることが目的であり、先日、第一回放送のロケも終了し、撮影に協力いただいた地元住民グループの方々にも大変喜んでいただいた。

なお、この番組は、県内だけでなく、広島県内でも放送することになっている。

また、インターネットを活用した取り組みとして、キャラバン隊の活動や番組制作の裏側等を紹介しているブログや、ブログでは伝えきれない、より掘り下げた情報を伝えるため、南予の地域色豊かなグルメ等の観光体験を中心に、その背景にあるまちづくりに係る歴史や人物を取材した「にゃんよ体験記」や「にゃんよ壁紙カレンダー」、「にゃんよ動画」等を配信している。

## ●食とにゃんよを活用した地域の活性化

道の駅みま(宇和島市三間町)及び地元住民グループとともに、南予地域の食材を活用した「にゃんよスイーツシリーズ」の開発に取り組んだ。アドバイザーにはえひめスイーツコンテスト2009のグランプリ受



にゃんよのおやつ  
みまぼ-ろ

賞者である永尾彰英氏(なごおあきひで)（パティスリーミカンカフェ）を迎え、関係者の努力と熱意のおかげで、三間町ならではのスイーツ「吟醸バターカステラ 虎の尾」と「にゃんよのおやつ みまぼ-ろ」が完成した。多くの報道機関に取り上げられたこともあり、5月21日の発売以降、ありがたいことに品薄状態が続くなど好評を博している。

今後、南予各地で、地元ならではのの特産品を活かした第2弾、第3弾のスイーツ開発に取り組み、より多くの人に南予を知ってもらえる取り組みとして育てていきたいと考えている。

## ●JRと連携した東北の復興支援

JR6社と地域観光関係者や地方自治体等が協力して実施する日本最大規模の観光



JR青森DC広報ポスター





キャンペーン「青森ディスプレイネーションキャンペーン」が4月23日から開催されているが、この広報ポスターに、「せんとくん」他全国6地域のゆるきやらが集結する中、JR四国さんにお話をいただき、四国代表のゆるきやらとして「にゃんよ」も参加させていただいている。

このキャンペーンは、青森県への観光誘客のみならず、東北地方の被災地復興支援の意味合いを強く持ち、「がんばろう東北！がんばろう日本！」をキャッチフレーズに、「にゃんよ」も「いま青森はネコの手を借りたいほど大変みたいだから、応援に来たにゃんよ」というセリフとともに東北を応援している。この広報ポスターは、数種類

のパターンで段階的に発表され、首都圏を中心とした全国のJR主要駅構内や電車の中に、総計10万部以上のポスターが掲出される。

### 『えひめ南予いやし博2012』と今後の取り組みについて

さらに、今後の活動として、2012年（平成24年）4月から11月の間開催が予定されている、宇和島圏観光振興イベント「えひめ南予いやし博2012」においても、「にゃんよ」にはイベントの強力なサポーターとして、キャラバンや広報ポスター等を通じて、多くの場面で活躍してもらう予定である。



### 来年度春から開催予定の「えひめ南予いやし博2012」

2011年度中に予定されている松山自動車道の宇和島延伸を南予地域の活性化の絶好のチャンスとして捉え、「うみ・かわ・もり・ひと、楽園めぐり」をテーマに宇和島圏域の4市町（宇和島市、松野町、鬼北町、愛南町）と連携して実施するものである。

イベント開催に向けては、2004年の町並博以降、南予で取り組んできた住民主体の観光まちづくりの視点に立ち、自然・風土や文化といった地域資源に光をあてた観光プログラムの開発に取り組みとともに、イベント開催を通じ観光地としての認知度を高め、宇和島圏域のブランド化を図っていききたいと考えている。

### 「ゆるきやら」と「まちづくり」

最後に、繰り返しにはなるが、ゆるきやはそれ自体を売り込むのではなく、あくまでもその地域を売り込むツールとして捉える必要がある。もちろん地域を知ってもらうためのツールとして活用するには、キャラクター自体の魅力も必要であるが、その部分にはばかり力を注ぎ込むと、人気や人の興味も一過性のものになってしまう。

「にゃんよ」という情報発信ツールを通じ、これまでは知ってもらうことが難しかった地域や、近くにありながら興味を持ってもらえなかった県内の人達に、南予の魅力やまちづくりの取り組みをこれまでに以上知ってもらいたいという思いで今まで活動してきた。これからもその思いを持ち続け、「にゃんよ」と南予地域を多くの人に紹介していきたい。